



<コラム：“同様に確からしい”は難しい>

さいころの目やコインの裏表のように、どの事象が起こることも同程度に期待できることを、“同様に確からしい”という。逆に、同様に確からしくない事柄としては、ペットボトルキャップの裏表などが考えられる。

しかし、**現実の**さいころやコインは、汚れの付き方や模様などにより、目が出る事象や裏表の出方が**厳密に**同様に確からしいといえない場合がある。そのため、本当に同様に確からしいといえる事象を作るために、電気のノイズなどを利用した「物理乱数発生装置」がある。

コンピュータでも同様に確からしい現象が必要となる。例えば、どうぶつの森でなんの魚が釣れるか、ドラクエのカジノで当たりが出るか、などは確率が使われる。コンピュータはさいころを振ることやコインを投げることはできないので、計算で頑張って“同様に確からしい”といえそうな事象を作っている。

このように、“同様に確からしい”は身近にある現象だが、物理的に実現することも、コンピュータ上で実現することも意外と難しい。